

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第43週 (10/20-10/26) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

| 報告のあった定点数              |          | 43週 | 42週 | 41週 | 40週 |
|------------------------|----------|-----|-----|-----|-----|
| 上段:患者数<br>下段:定点当たりの患者数 | 小児科      | 18  | 18  | 17  | 18  |
|                        | 眼科       | 5   | 5   | 4   | 5   |
|                        | インフルエンザ* | 28  | 28  | 26  | 28  |
|                        | 基幹定点     | 1   | 1   | 1   | 1   |

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

| 定 点  | 感 染 症 名                   | 千 葉 市 |             |             |            |           | 千葉県         |
|------|---------------------------|-------|-------------|-------------|------------|-----------|-------------|
|      |                           | 注意報   | 10/20-10/26 | 10/13-10/19 | 10/6-10/12 | 9/29-10/5 | 10/13-10/19 |
|      |                           |       | 43週         | 42週         | 41週        | 40週       | 42週         |
| 小児科  | RSウイルス感染症                 |       | 6           | 5           | 1          | 3         | 83          |
|      | 咽頭結膜熱                     |       | 0           | 0           | 2          | 0         | 13          |
|      | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎             | ○     | 29          | 20          | 16         | 16        | 153         |
|      | 感染性胃腸炎                    |       | 60          | 52          | 42         | 59        | 388         |
|      | 水痘                        |       | 12          | 12          | 12         | 10        | 67          |
|      | 手足口病                      |       | 21          | 19          | 24         | 25        | 143         |
|      | 伝染性紅斑                     |       | 4           | 3           | 2          | 6         | 24          |
|      | 突発性発しん                    |       | 16          | 6           | 9          | 18        | 61          |
|      | 百日咳                       |       | 0           | 0           | 0          | 1         | 1           |
|      | ヘルパンギーナ                   |       | 1           | 4           | 7          | 9         | 31          |
|      | 流行性耳下腺炎                   |       | 5           | 5           | 0          | 3         | 58          |
| インフル | インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く) |       | 8           | 1           | 6          | 0         | 15          |
| 眼科   | 急性出血性結膜炎                  |       | 0           | 0           | 0          | 0         | 0           |
|      | 流行性角結膜炎                   |       | 0           | 0           | 1          | 2         | 10          |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎<br>(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)   |       | 0           | 0           | 0          | 0         | 0           |
|      | 無菌性髄膜炎                    |       | 1           | 0           | 0          | 2         | 0           |
|      | マイコプラズマ肺炎                 |       | 0           | 1           | 1          | 0         | 3           |
|      | クラミジア肺炎<br>(オウム病を除く)      |       | 0           | 1           | 0          | 0         | 1           |
|      | 感染性胃腸炎<br>(ロタウイルスに限る)     |       | 0           | 0           | 0          | 0         | 0           |

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(4件)

| 病名 | 性  | 年齢層  | 診断(検査)方法 | 病名 | 性  | 年齢層  | 診断(検査)方法 |
|----|----|------|----------|----|----|------|----------|
| 結核 | 男性 | 40歳代 | 画像診断等    | 結核 | 女性 | 60歳代 | 画像診断     |
| 結核 | 男性 | 70歳代 | IGRA検査等  | 梅毒 | 女性 | 50歳代 | 血清抗体の検出  |

・結核3件(217)、梅毒1件(16)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

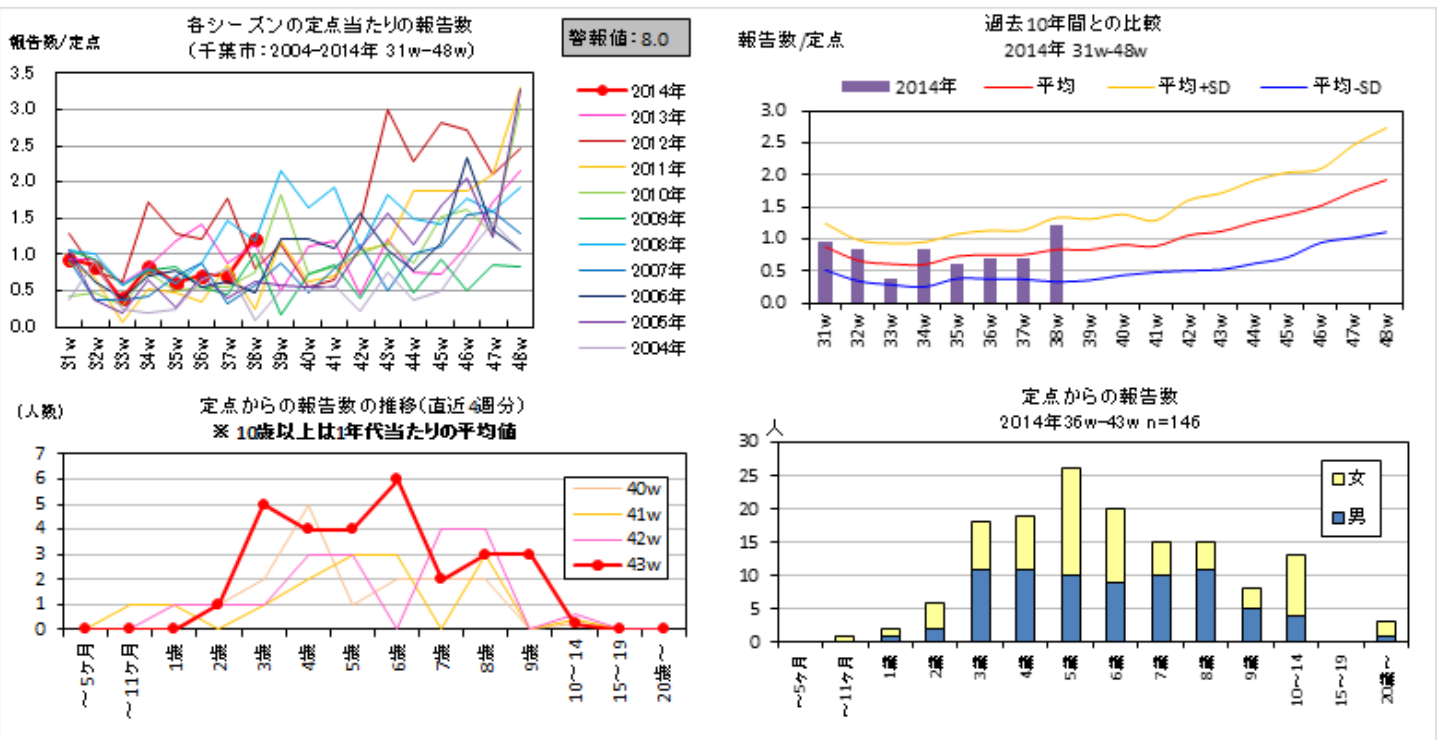
## 定点当たり報告数 第43週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し1.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

## <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

2014年の全国レベルの第42週現在は、過去7年間の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では島根県、北海道、鳥取県の順で発生が多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市では、第43週は前週より増加し1.61となり、過去10年間の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区で最も多く、同区の3歳で最多となっています。

A群溶血性レンサ球菌は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよくみられるグラム陽性菌で、菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。日常よくみられる疾患として、急性咽頭炎の他、膿瘍、蜂窩織炎などがあります。潜伏期は2～5日ですが、潜伏期での感染性については不明です。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。咽頭壁は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌(舌の表面が莓のように真っ赤になる)がみられることがあります。二次疾患としてリウマチ熱や急性糸球体腎炎などを起こすこともあります。学童期の小児に最も多く見られ、冬期及び春から初夏にかけて2つの流行のピークが出現します。予防にはうがいや手洗いの励行などの一般的な予防法の外、患者との濃厚接触を避けることも大切です。



## <梅毒>

2014年全国レベルの第42週現在の累積発生届出数は1308件で、過去7年で最も多かった2013年の1220件を上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、愛知県の順に多くなっています。千葉県で全国で5番目に多くなっています。千葉市では年々増加傾向にあり、第43週に1件の報告があり、累積届出数は16件となり、過去10年で最も多くなっています。内訳は、男性が12名、女性が4名で、男性は20歳代が1名、30歳代及び40歳代がそれぞれ3名、50歳代以上が5名、女性は20歳代及び30歳代がそれぞれ1名、50歳代以上が2名、病型は無症状病原保有者が7名、早期顕症梅毒(Ⅱ期)が6名、晩期顕症梅毒が3名、感染経路は異性間性的接触が6名、同性間性的接触が4名、不明が4名、性別不明の性的接触が2名となっています。

梅毒は、梅毒トレポネマ(*Treponema pallidum*)による性感染症で、主に菌を排出している感染者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によって感染します。妊婦が感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、先天梅毒となります。潜伏期は3週間程度で、感染部位の病変を始めとして全身に至り、発熱、倦怠感、リンパ腺症、粘膜疹、扁平コンジローマ、脱毛、髄膜炎、頭痛などを起こし、その後神経症状等様々な症状が出現します。予防としては、感染者との性行為、疑似性行為を避けることが基本です。コンドームの使用は効果はあるものの、疫学データからすると淋菌感染症の場合ほどには完全でないとされています。

